

# 自己評価・学校関係者評価表（平成 29 年度）

岸和田いずみ幼稚園

## 1、本園の教育目標

心身共に健康な子どもを育てる

- ・ 自分の思いや考えが表現できる子ども
- ・ 友達と仲良く遊べる子ども
- ・ 根気よく頑張る子ども
- ・ 相手を思いやるやさしい子

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・ 指導計画が教育要領や教育理念、子どもの実態に即しているかを把握し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高める。
- ・ 社会のニーズを意識し、確認していくことで、幼稚園が今後求められている役割を明確にしていく。

## 3、評価項目の達成及び取組状況

教育項目	取組状況
保育内容のお知らせにあわせて、子育ての情報の発信に努める	毎週保護者に配布する手紙の中で、その週に行う保育内容を知らせている。園内で読み聞かせている絵本や、季節の絵本、年齢に応じた絵本等や保育で歌う季節の歌等を知らせていき、家庭での親子の交流を促した。
教職員の情報の伝達の取り組みについて	・ 教職員が保護者等より得た情報を、保育室のボードを活用して書き取ったり、言葉を反芻することで間違いを防ぐようにした。しかし、日常の保育中等は、伝言を把握することが不十分な事もあり、その意識の向上にさらに努める必要がある。
安全管理	・ 保育室内での机や椅子の環境設定をおこない、併せてコーナー遊びの充実に努めてきた。またおもちゃ等は季節や保育人数を考慮した量の提供に努めた。 ・ 子どもの事故やけがが発生時には、保護者に速やかに連絡をし、通院、治療を行った。遊具や保育室内の危険個所の点検や、都度子ども達への注意喚起を行った。 ・ 子ども同士のトラブルでけがの発生時には、両者への速やかな説明を行い、以後子どもの特性を把握し、同様のトラブルが発生しないように危機管理意識を高めた。

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員が毎日の終礼を通し日々の保育の反省や、研修会での報告を行い、また支援を必要とする子どもの取り組むべき課題を共通理解することに努めてきた。また、全教職員が子どもの情報や、日々の伝達事項などを共有する意識を高めてきた。

保育参観や懇談会などの保護者が来園する機会を利用して、信頼関係の構築に努めてきた。担任が様々な機会を有効に活用し、保護者との連携を充実させていくことに努めた。

#### 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
新教育要領の理解を深める	平成 30 年 4 月 1 日から実施される新幼稚園教育要領において、小学校教育との接続を意識し、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を考慮しつつ、教育活動の質の向上を図る*カリキュラムマネジメントを実施していく。  *カリキュラムマネジメントとは学校教育目標の実現に向けて、子どもや地域の実態をふまえ、教育課程（カリキュラム）を編成、実施、評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的、組織的に推進していくことであり、また、そのための条件づくりや整備である。それは学校経営の営みにおいて中核に位置づくものである。
教職員の情報伝達を徹底する	・教職員が保護者等より得た情報を、確実に他の教職員と共有する手立てを講じる。また、伝え間違いや、伝え忘れを防ぐために、口頭だけではなく、紙面を利用したり、言葉を反芻したりする工夫をする。 ・情報共有が不十分であった時の危機意識を持つことの重要性を理解する。
体幹を鍛える	・広い園庭と、新園舎の遊戯ホールを活用し、遊びを通して身体を動かす楽しさを身に付けていく。 ・固定遊具での遊びだけではなく、ルールのある遊び、自ら考え工夫する遊びを、身体を動かしながら取り組むことができるような環境設定や、遊びが膨らむような言葉掛けをしていく。

#### 6、学校関係者の評価

特に指導すべきことはなく、妥当であると認められる

## 7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。